

ABの「お約束」2025（入会案内版）

登山技術研究会アルペンブルーメには、会運営上の決まり事を定めたAB会則と、その会則を実際に運用する上での解釈を示したABの「お約束」とがあります。

ここでは、それらの決まり事を、入会を検討している方にとって関心の高い部分に絞り、Q&A形式にまとめてみました。入会案内時の説明等に活用して下さい。

名称編

Q：登山技術研究会アルペンブルーメは、どのような会ですか？

A：一言で答えるなら、岩登りや沢登り、雪山登山といったバリエーション登山を楽しむ山岳会です。ただし、共通の目標を強いたり、個々の志向を妨げたりはしません。2025年11月末現在、15名の会員、23名の準会員が、バリエーション登山に限ることなく、ハイキングや尾根歩き、蘆山、クライミング、スキーなど多岐にわたり、共に登る仲間を求めあいながら活動しています。

Q：登山技術研究とは、どのようなことですか？

A：登山技術は、これまで主に山岳会単位で伝統的に受け継がれてきました。今ではネット動画で簡単に見ることができるものもあるし、ガイドによる講習やスクールも盛んです。確かに閉鎖的な山岳会の場合、そこで伝える登山技術も古くなりがちです。かといって、動画を見ただけ、あるいは講習を受けただけで身に着くものと考えerことは危険です。アルペンブルーメでは、所属山岳会の垣根を越え、それぞれの知識を持ち寄り、一緒に支えあいながら練習を繰り返すことで、メンバーシップを醸成させるとともに、その場に合った正しい技術を選択し、熟練していくことを目指しています。

Q：すでに一定の技術を身に付けていなければ入会できないということですか？

A：大丈夫です。登山技術は、単に自分ができるというだけで安心してはいけません。その技術のメリットとデメリットを正しく認識し、相手に正確に伝えられてこそ一人前だと考えています。その意味では、練習相手としての未経験者は歓迎です。さらにアルペンブルーメでは、未経験者に最初に伝えるべきスタンダードな技術テキストとして、ABスタンダードの作成に取り組んでいます。これから技術を学びたいと考えている方にとっても、魅力的な会でありたいと考えています。

Q：アルペンブルーメとは、どのような意味ですか？

A：直訳するとアルプスに咲く草花です。アルプスに咲く花のように、清楚でありながらも強く生きる力をあわせ持った岳人でありたいと願う創立メンバーの想いを表しています。くだけて言えば、けっして派手な記録だけに囚われることなく、他人と競い合うことなく、身の丈に合った冒険を好み、多少は困難な状況に遭遇したとしても、しぶとく生

き残る力を身に着けたいという事です。ただし、あくまで創立メンバーの想いであり、全ての会員、準会員に強要するものではありません。

労山基金編

Q：東京都勤労者山岳連盟に加盟しているということですが？

A：登山はすぐれたスポーツ文化であり、憲法で保障された国民の権利であるとする理念に共感するということがあります。何よりも共済制度としての労山基金（労山山岳事故対策基金）が優れています。ココヘリと併せて加入することにより、さらに安心な共済となりました。

Q：他の保険にも加入しているのですが、労山基金の加入は義務ですか？

A：会員の方には全員加入していただいています（準会員は別）。労山基金の優れた点の一つは、会の代表が受取人であることです。たとえ本人が受け取れない状態であったとしても、会が責任をもって給付申請し、捜索・救助にかかった費用の支払いにあてます（死亡・障害給付金は本人または家族にわたします）。ただし、加入後一年が経過しないうちは、海外登山に制限があるので、他の保険との併用が必要な場合もあります。最初の一年は、お付き合いで一口だけ加入しておくという手もあります（継続の特典、救助捜索費用の給付率400倍が毎年10倍、最高500倍まで加算される）。

Q：では、年会費の他にも労山基金の費用が必要なのですか？

はい、入会時に年会費6,000円（入会金無し、入会時期により月割りあり）の他に労山基金、最低1口1,000円（入会金無し、10口まで任意、5口以上がお勧め、入会時期により月割りあり）が必要です。さらにココヘリへの加入も勧めています（ココヘリの捜索サービスに加え、労山基金の救助捜索費用給付率が1,000倍にアップ、さらに労山基金にない個人賠償責任補償をカバー）。ココヘリ（入会金2,200円、年会費6,600円）については個人での加入手続きをお願いしています。

準会員編

Q：会員の他に準会員という制度があるようですが？

A：はい。準会員は会費を頂きません。代わりに年間500円の運営協力金を頂くだけで、その年度内は会員とほぼ同等に活動して頂けます（ミーティングの参加、登山計画書の提出、ライングループの登録、メーリングリストの登録、ホームページの閲覧、ブログの投稿、など）。

Q：なぜ、そんなに安いのですか？

A：準会員になるには、すでに他の山岳会に所属しているということが条件です。アルペン

ブルームとしては、登山技術の研究という観点から、掛け持ち入会を歓迎していますが、それぞれの会ごとに会費を払ってはいは負担が大きいです。特に同じ労山に加盟する会では分担金を二重に納めることとなります。費用の面でも負担を減らし、なるべく敷居を下げることで、広く仲間を募り、それぞれが持っている知識と技術を交流出来たら良いと考えています。

Q：本当に初心者なのですか？

A：大丈夫です。登山の基本を学んでみたいだけ、あるいは単にパートナーを探しているというだけでも構いません。初心者に対する指導方法の研究は技術研究の要だと考えています。また、AB会員にとっても、共に練習し、一緒に登るパートナーを求める気持ちは同じです。とりあえずは準会員となって様子を見てみるという手もあります。

Q：会員と準会員の違いは会費の他にもありますか？

A：はい。準会員には会費納入の義務が無い代わりに、総会での議決権も有りません。ただし、それは採決に参加できないというだけです（定期総会は毎年11月）。準会員の方々も総会に出席し、是非それぞれの想いを発言して頂きたいです。他にも、山行管理については、それぞれの所属会で行ってもらいますが、詳しくは次項を参照してください。

山行管理編

Q：登山計画書の管理はどのようになっていますか？

A：登山計画書の提出先には注意が必要です。下山の確認や遭難時の対応は、それぞれの所属山岳会が主体となります（寄せ集めパーティーの場合はリーダーの所属する山岳会が調整します）。AB会員がリーダーで、アルペンブルームに計画書が提出されていたとしても、準会員は別に、それぞれの所属する山岳会にも提出して頂いています。とりわけ労山基金に加入している場合は、それを管理している山岳会に計画書を提出していることが、給付を申請するうえでの必須条件です。準会員がリーダーで、そこにAB会員が同行する場合は、どちらの会の書式でも構わないので、アルペンブルームにも提出して頂いています。準会員がリーダーで、そこにAB会員が同行しない場合は、アルペンブルームに計画書を提出する必要はありません（それでも提出されたものは受け付けます）。ガイド登山や講習会であっても計画書の提出が必要な場合もあります。地域の登山条例等で定めのある場合は、そこにも従ってください。

Q：現在所属している山岳会が個人山行を管理してくれないのですが？

A：困ったことですが、まだまだ会員外との登山や個人山行が認められていなかったりする会が在ると聞きます。そのような場合には、アルペンブルームに会員として入会されることをお勧めします。アルペンブルームでは、個人の自由な意志と責任を尊重し、どの

ような計画書でも受け付けています。そして最悪でも行方不明にはさせないというところに主眼をおいて管理させていただきます。管理が厳しいから計画書を提出したくない、あるいは内緒で行くとなってしまうては本末転倒と言ってもいいでしょう。

Q：現在所属している山岳会が掛け持ち入会を認めていないのですが？

A：様々なしがらみから、今所属している会を辞めたくても辞められないということもありますよね。それでもアルペンブルーメに関心を持っていただきありがとうございます。とりあえずは準会員となって、じっくりと様子を見てから判断して頂いて構いません。ただし所属山岳会以外での登山（所属山岳会に計画書を提出しない登山）を行う場合には別途ご相談願います。山岳保険やココヘリ加入の有無を確認させて頂くとともに、アルペンブルーメの他にコンパス等への届け出もお願いすることがあります。

山行計画編

Q：年間計画のようなものがあつたら教えてもらいたいのですが？

A：申し訳ありません。登山は個人の自由な意志と責任で行うという観点から会山行は行いません（つまり年間計画はありません）。しいて言えば、月に一度、ミーティングを兼ねて、日和田山の岩場（雨天等で屋外での開催が困難な場合はクライミングジム）で行う岩トレがありますが、それすらも強制ではありません。岩トレの課題は基本的なロープワーク（男岩南面でリード&フォロー、懸垂下降と仮固定、西面でトップロープ、セットと回収）です。事前のミーティングで要望を伺うので、アイゼンワークや人工登攀、セルフレスキューなどを行うこともあります。クライミングジムの場合は主にビレイの練習や初級レベルのセッション、特に希望のある場合にはロープワーク等も行っています。

Q：様々な入門山行や体験山行があると聞いたのですが？

A：はい。ホームページを見ると様子がわかると思います。大体の時期は決まっていますが、毎年決まって行われるものではありません。あくまでも会山行ではなく、初心者向けの指導方法を研究するという目的で行われる自主山行です。つまり、講習を希望する初心者と、指導方法を研究したい会員との都合が一致したところで行われます。ミーティング時に遠慮なく希望をお伝えください（過去にないものでも構いません）。ただし、あくまで個人的な指導方法の研究が目的なので、内容は保証しません。教わる側も、ただ教わるだけでなく、ネット動画でも何でもよいので、事前に学習したことを試してみるという姿勢が大事です。

Q：入会前のお試し山行はありますか？

A：特にお試し山行という呼び方はしませんが、ミーティング見学者や入会間もない方につ

いては、ミーティングの場で予定や希望を伺い、できるだけそれに応えていきたいと考えています。クライミング等でロープを使用する場合には、事前にクライミングジムにお誘いし、お互いのビレイ技術や身のこなしを確認しあっています。クライミングジムや日和田山の岩トレでよろしければ、入会問い合わせ時に申し出ただけで、ミーティング見学前であっても、希望に応えられることがあります。

Q：つまり、ミーティングに参加しないと、登山のお誘いは無いということですね？

A：まあ、その通りです。アルペンブルーメでは、決まったリーダーが募集し、そこに応募した会員を連れていくといった引率登山は行いません。お互いに対等な立場で誘い合い、言い出しっぺがリーダーを務めるといった気風を大切にしています。少し慣れてくれば、仲良しどうしで誘い合うということもありますが、ABニュースで送られてくる予定を待っているだけでは、ほぼメンバーの確定した計画だけです。どんなに多忙だとしても、登山口に集合するまで相手の顔が分からないというのでは危険です。なんとかミーティングに時間を割いていただき、お互いに顔を合わせながら誘い合っていきましょう。皆さんの集まるミーティングの場で、自発的な登山計画が次々と生まれだす環境づくり、それこそが山岳会運営の基本だと考えています。そのためには、たとえ見学者や新入会員であっても、その予定や希望を率直に言い出しやすいような雰囲気づくりに気を配ることこそが最も大切だと考えています。

Q：分かりました。ミーティングは見学可能ですか？

A：定例のミーティングは、毎月第4木曜日19：00～21：00ちょい過ぎ迄、西武池袋線練馬駅に直結のココネリ3階、多目的室または研修室で開催されます。内容は主にヒヤリハットの報告と山行計画です。20：30～21：00までの30分間はZoomによるリモート参加も可能です。毎年11月のミーティングは総会も兼ねて開催されます。他に臨時のミーティングを第2土曜、または翌日曜に日和田山での岩トレと兼ねて、巾着田の河原で行っています。臨時のミーティングは天候や季節によってはクライミングジムに変更することもあります。定例、臨時、どちらのミーティングも見学可能ですが、開催日時や会場が変更されることもあるので、必ず事前にご連絡願います（ホームページの問い合わせ）。アルペンブルーメは、皆さんのお越しを心より歓迎いたします。

メモ

2025年度(2025/11/01~2026/10/31) 役員と主な役割

会長：____ …入退会に関すること
総会・ミーティングに関すること(会場予約は____)
会費・運営協力金に関すること
労山遭難対策基金に関すること
その他、相談窓口

運営委員長：____ …ホームページ・ブログに関すること
メーリングリスト・ライングループに関すること
技術研究・指導者養成に関すること

運営委員：____ …運営委員長の補佐(ABスタンダード)

運営委員：____ …運営委員長の補佐(ABスタンダード、メーリングリスト)

会計監査：____ …会計の監査

ホームページ「会員の部屋」を閲覧するには
パスワードが必要

会員名簿(Excel)を開くには
パスワードが必要

ブログに投稿するには
ユーザー名とパスワードが必要